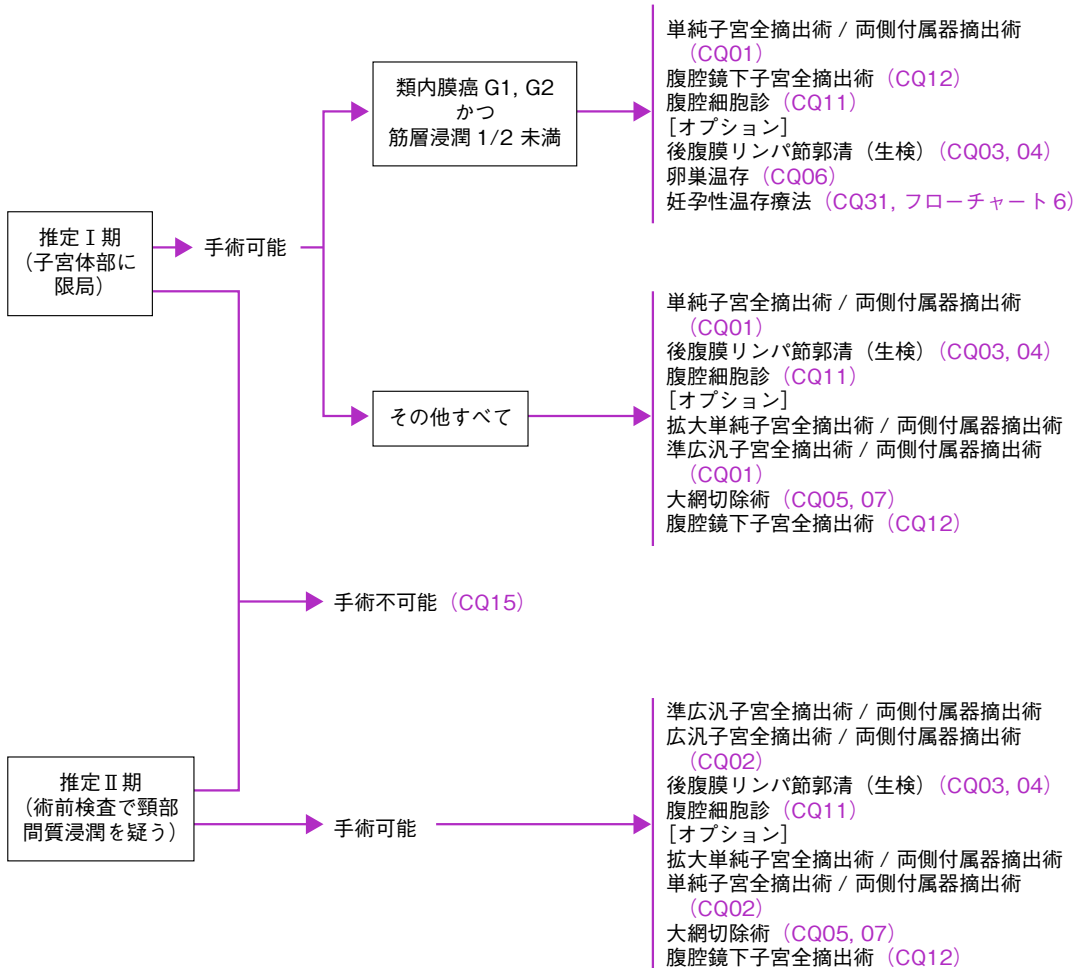


## フローチャート 1

### 子宮体癌の初回治療：術前に I・II 期と考えられる症例



注 1) 病理診断および画像診断 (CQ08) により手術進行期を術前に推定する。

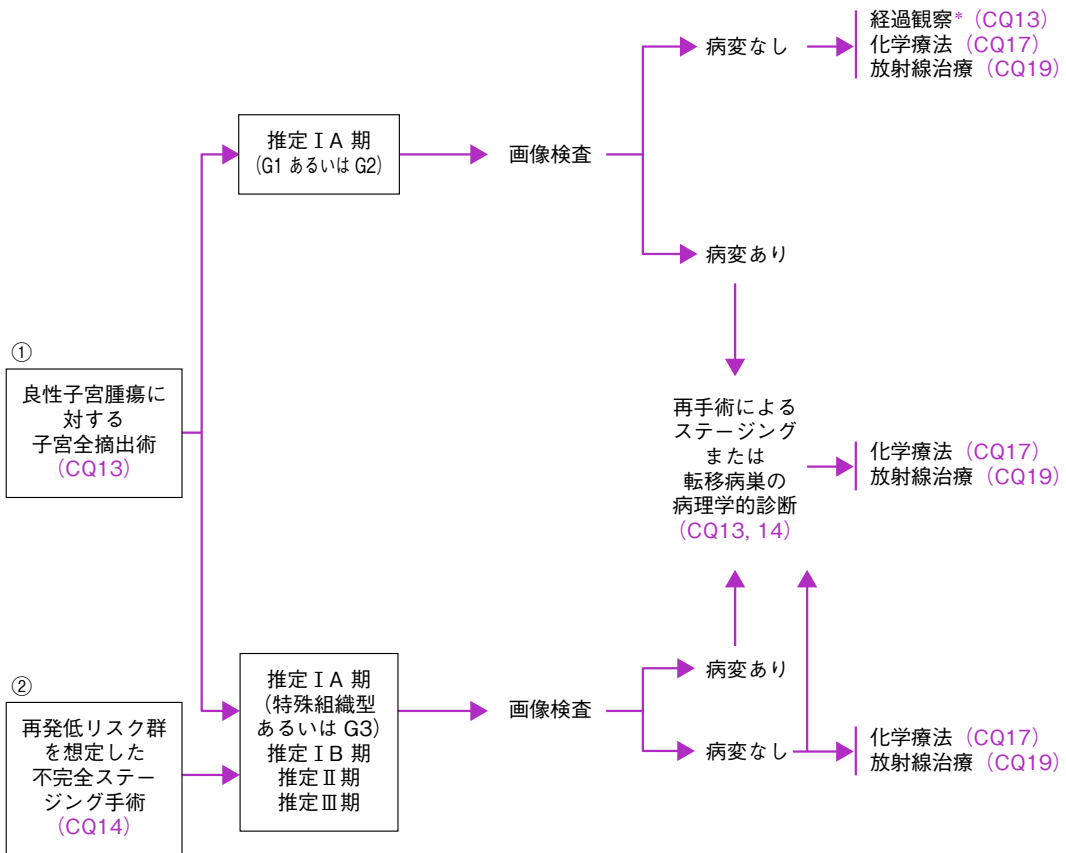
注 2) 漿液性癌/ 明細胞癌 (CQ07) に対しては、子宮全摘出術/ 両側付属器摘出術に加えて骨盤・傍大動脈リンパ節郭清 (生検) と大網切除術を提案する。

注 3) 手術不能例には放射線治療 (CQ15) あるいは化学療法を検討する。

## フローチャート 2

### 子宮体癌の初回治療：

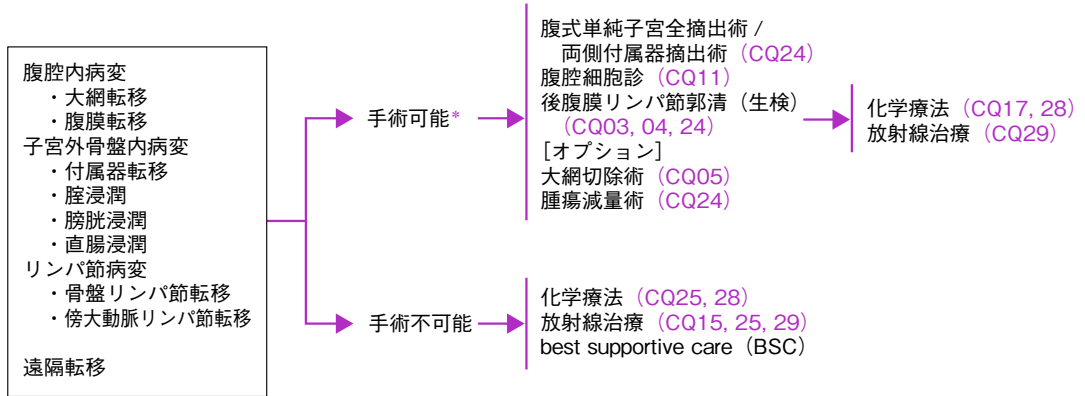
- ①子宮摘出後に子宮体癌と判明した症例
- ②再発低リスク群を想定して行われた手術の後に再発中・高リスク群と判明した症例



\*NCCN ガイドライン 2017 年版では、再発低リスク群のうち、脈管侵襲陰性かつ腫瘍径が 2 cm 未満の場合に可能としている (CQ13)。

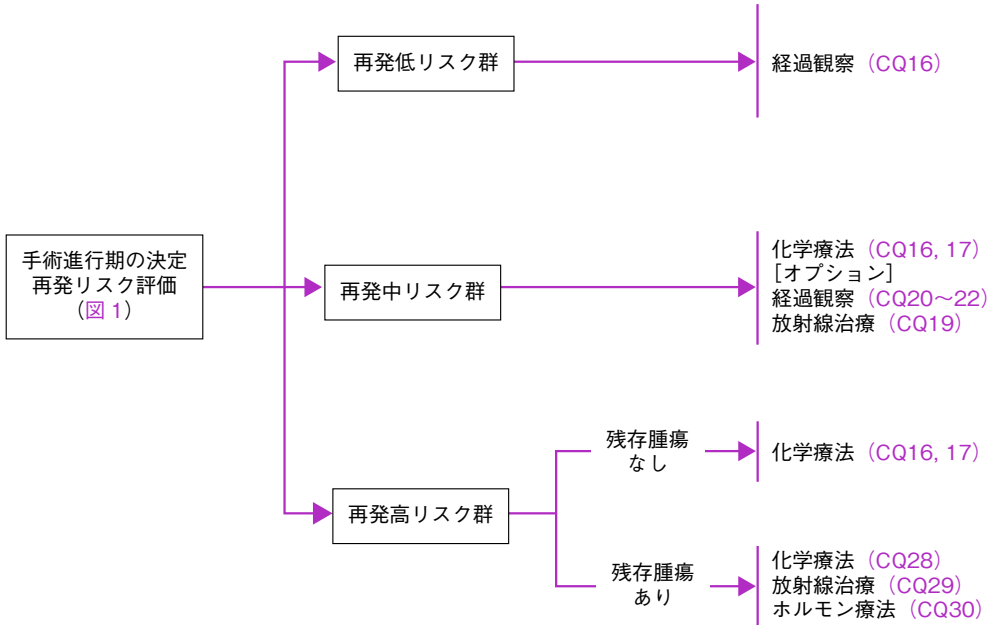
### フローチャート 3

## 子宮体癌の初回治療：術前にⅢ・Ⅳ期と考えられる症例



\*全身状態が許せばⅢ期は全症例，Ⅳ期では子宮全摘出術と可及的腫瘍減量術が可能な症例を指す(CQ24)。

## フローチャート 4 子宮体癌の術後治療



	筋層浸潤 なし	筋層浸潤 あり(<1/2)	脈管侵襲 あり	筋層浸潤 あり(1/2≤)	頸部間質 浸潤あり	子宮外病変*
● 類内膜癌 G1/G2	再発低リスク群	再発低リスク群	再発中リスク群	再発中リスク群	再発高リスク群	再発高リスク群
● 類内膜癌 G3	再発中リスク群	再発中リスク群	再発中リスク群	再発高リスク群	再発高リスク群	再発高リスク群
● 漿液性癌 ● 明細胞癌	再発中リスク群	再発高リスク群	再発高リスク群	再発高リスク群	再発高リスク群	再発高リスク群

■ : 再発低リスク群

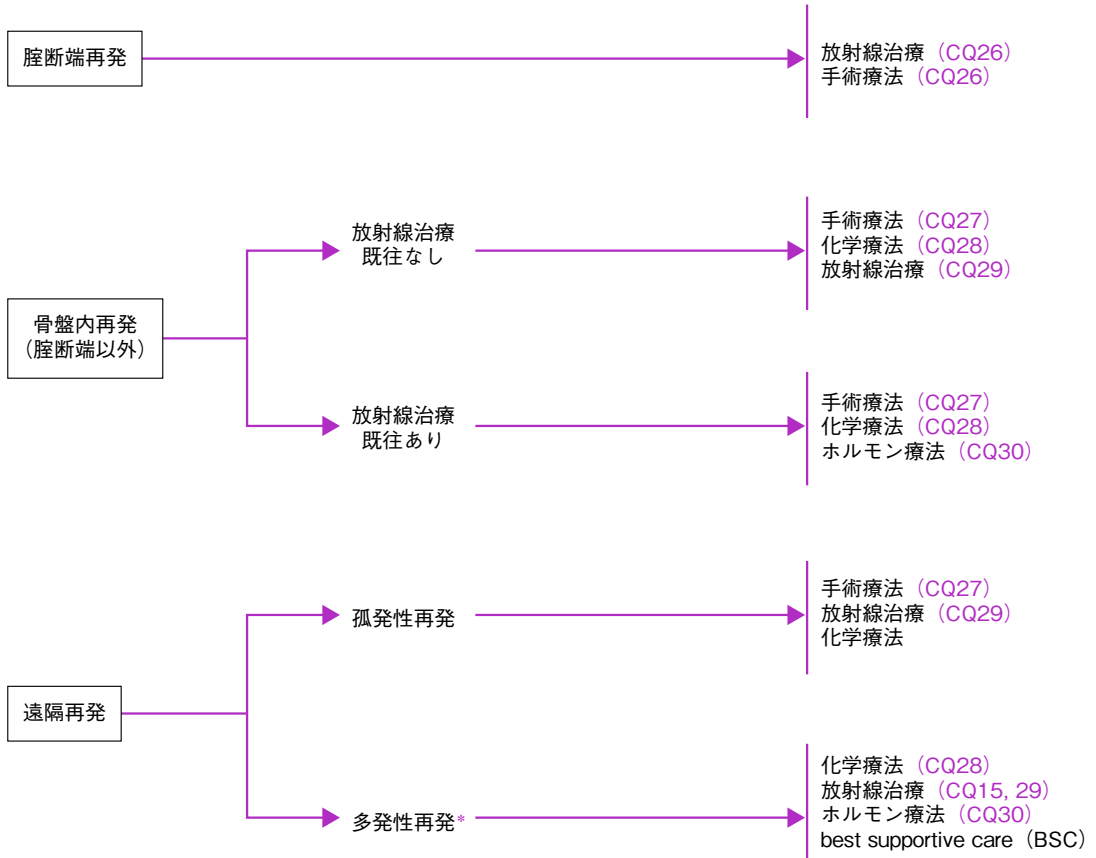
■ : 再発中リスク群

■ : 再発高リスク群

\*付属器, 膈壁, 基靭帯, リンパ節, 膀胱, 直腸, 腹腔内・遠隔転移 (子宮漿膜進展含む)  
注) 腹腔細胞診陽性については予後不良因子との意見もある。

図1 子宮体癌術後再発リスク分類

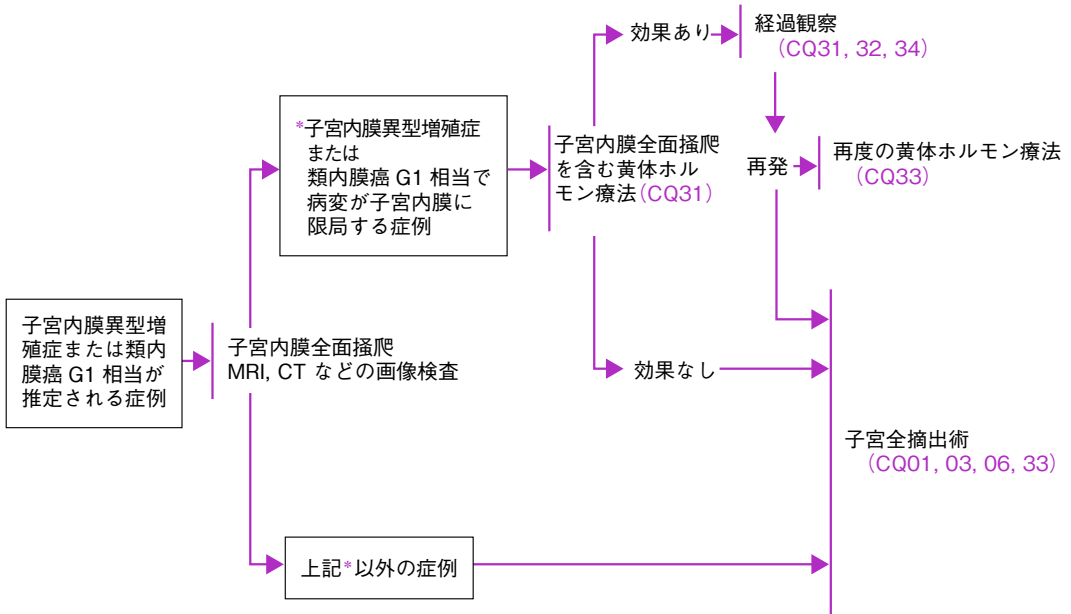
## フローチャート5 子宮体癌の再発治療



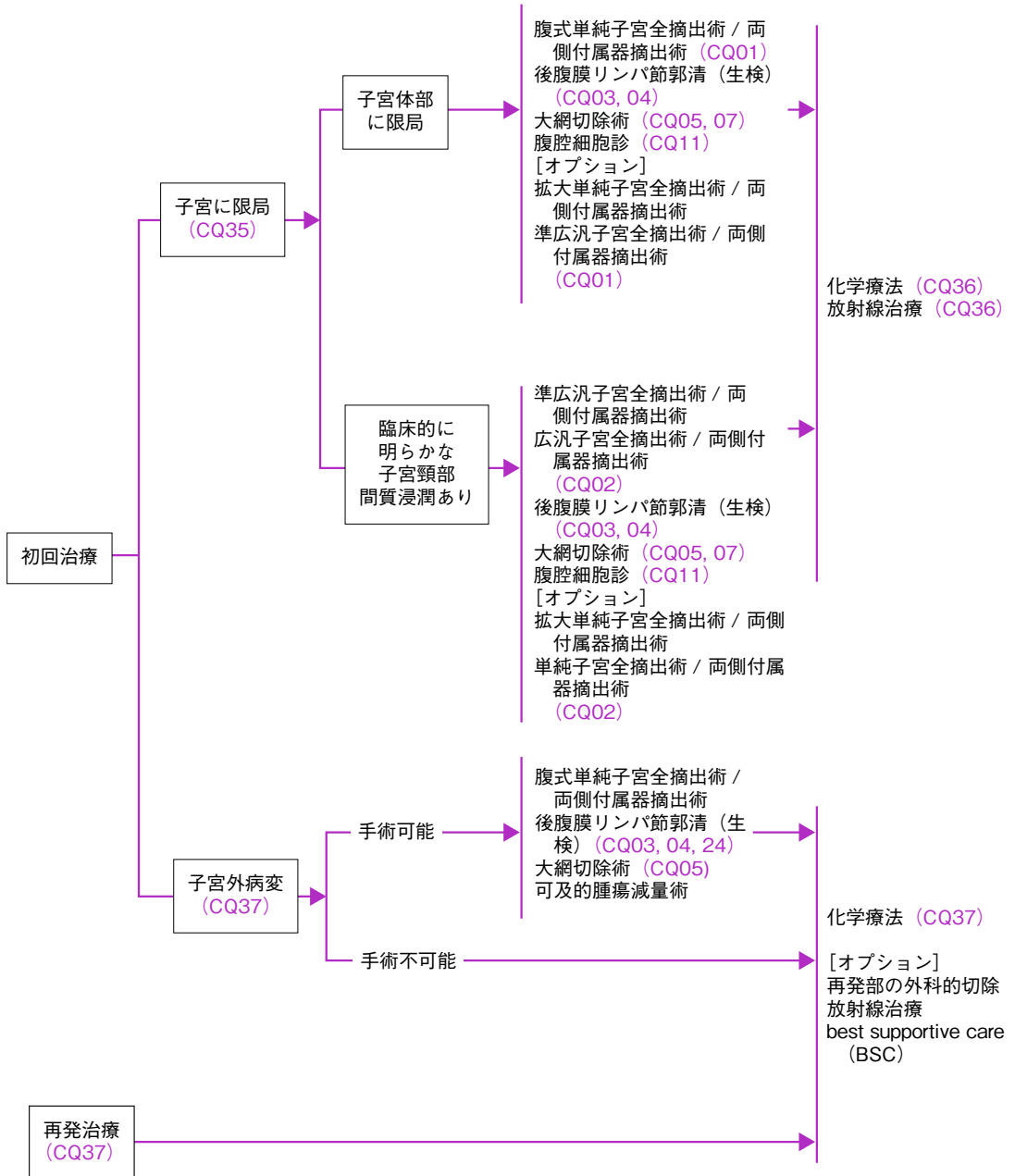
\*肺転移は多発性再発であっても腫瘍径が小さく、転移数が少数であれば手術療法も考慮される(CQ27)。

フローチャート 6

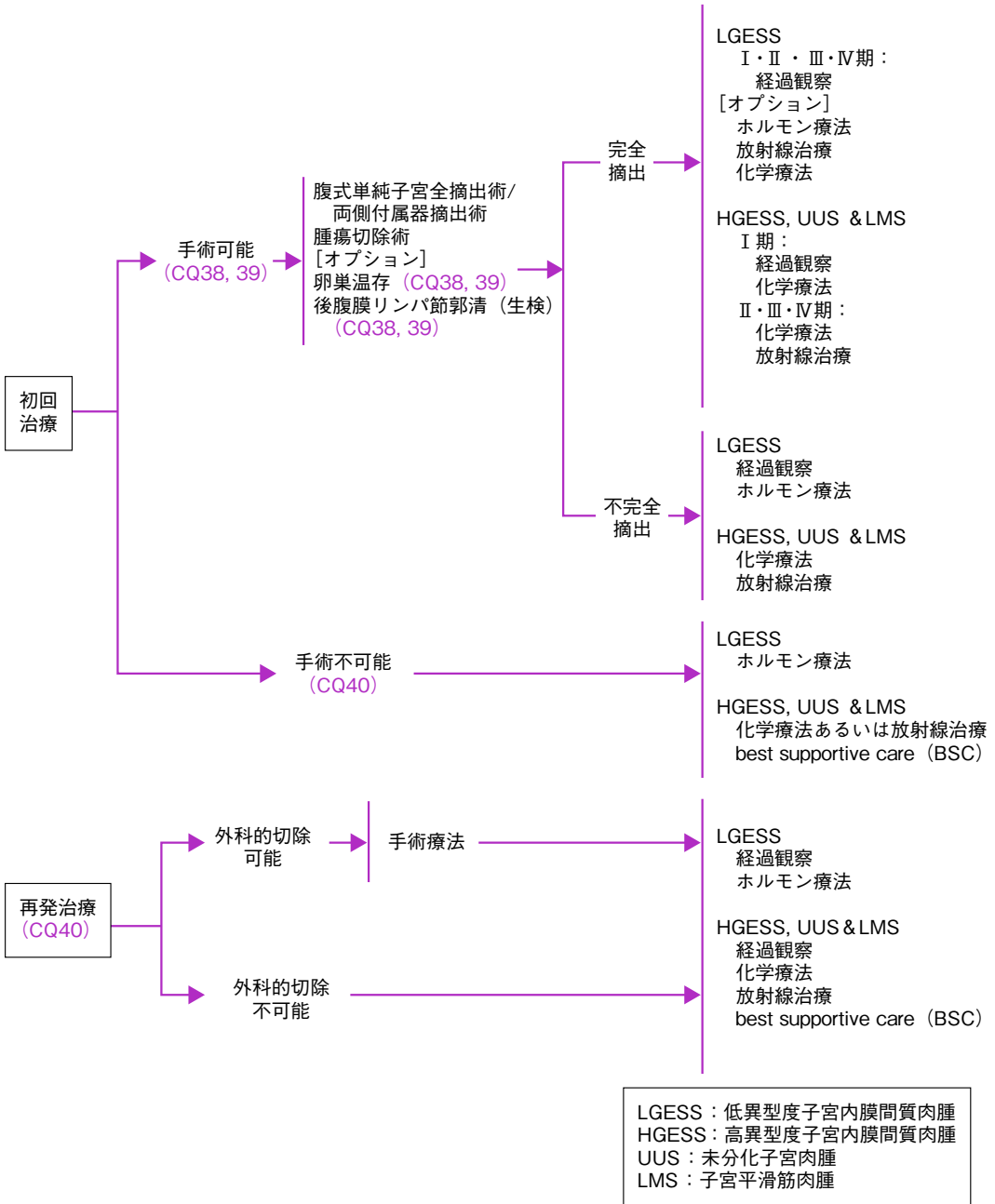
妊孕性温存療法(子宮内膜異型増殖症または類内膜癌 G1 相当)



## フローチャート7 子宮癌肉腫の治療



## フローチャート 8 子宮肉腫の治療





## フローチャート 9 絨毛癌の治療

